

防災 の 手引き

近年、日本各地で、地震・津波、豪雨・台風、竜巻、落雷、土砂災害などの自然災害が多発しています。また、私たちは東日本大震災に起因する原子力災害を経験しました。これらを踏まえ、町は、本年5月に檜葉町地域防災計画を見直し、帰町に向けた防災対策に取り組んでいます。

一方で、JR常磐線の運行再開や国道6号の全線開通に伴い、町内の人や車の往来がより一層増えていることもあり、町内で遭遇する災害に対してもしっかりと備えておくことが重要となっています。

この『防災の手引き』は、一時帰宅の際など町内にいるときに災害が発生した場合の対応についてまとめたものです。“わが家の防災対策”を考える一助にいただけると幸いです。

平成26年12月
檜 葉 町



地 震



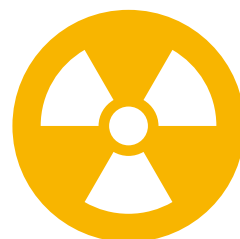
津 波



風水害



土砂災害



原子力災害

災害対応のポイント



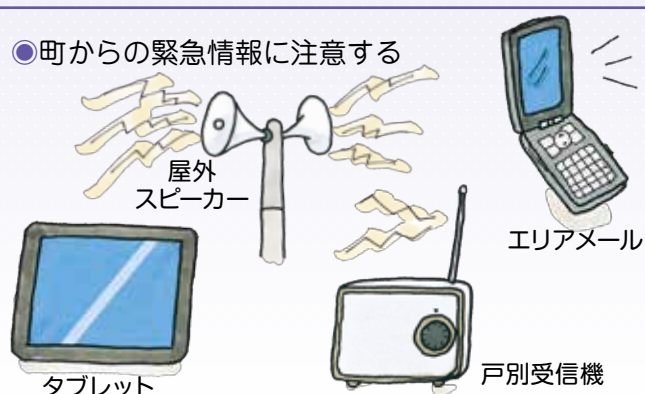
災害から身を守るためには、一人ひとりの災害に対する心構えや知識と備えが重要です。
災害の特徴を理解して、いざというときに的確に対応できるよう、日頃から家族や近所の人などで話し合っておきましょう。

1 情報に注意する

- テレビ、ラジオ、インターネットなどから情報を把握する



- 町からの緊急情報に注意する



2 事前の備えをしっかりと

避難に備えて

- 地域の危険箇所や避難所・避難ルートを確認する
- 家族の連絡先・連絡方法を確認する
- 非常持ち出し品を準備する



災害に強い家づくり

- 家具、電化製品等の転倒防止対策をする
- 家屋の耐震補強をする
- 窓ガラスの破砕防止対策(合わせガラス、飛散防止フィルム等)をする

3 災害が起きたら

- すばやくあわてずに、身を守る行動をとる
- 避難に時間がかかる人は早めに避難を開始する



災害別の行動は、
3ページ以降を
参照

4 避難情報(避難指示、避難勧告等)が出されたときの対応

避難のため自宅を離れるときは

- 非常持ち出し品を携帯する(貴重品は肌身離さず)
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす
- 窓や玄関の戸締まりを確実にする
- 隣近所にも声をかけ、お互い安全に避難できるように協力しましょう



鉄道・バスの乗車中などに避難情報が出されたら

- 係員の指示や誘導にしたがって行動する



地震のときは



地震が発生したら、まずは身を守ることが重要です。場所に応じた判断や必要な行動がとれるように確認しておきましょう。

また、揺れがおさまっても二次被害への注意が必要です。

▶ まず身を守る！

家の中



- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外に飛び出さない
- 無理に火を消そうとしない

街中



- ブロック塀の倒壊、看板や割れたガラスの落下などに注意する

運転中



- ハザードランプでまわりに注意を促す
- 急ブレーキはせず、緩やかに速度をおとす

鉄道・バス



- つり革や手すりにしっかりつかまる
- 将棋倒しや網棚からの落下物に注意する
- 駅では駅員のアナウンスに従う

山やがけの近く



- 落石やがけ崩れに注意する
- 山やがけからできるだけ遠くに離れ、平らで安全な場所へ避難する

緊急地震速報が出されたら

- 数秒～数十秒以内に、震度4以上の揺れが来る可能性がある
- すぐに身を守る行動をとれるよう準備する



▶ 揺れがおさまったら二次被害にも注意

ケガの防止



- 割れたガラスなどに注意し、靴を履いてけがを防ぐ
- 家族の確認や、けがの応急措置を行う

火災防止



- 火元を確認し、火災が発生したら落ち着いて初期消火をする
- ガスの元栓を閉め、ガス漏れがないかを確認する

家屋の倒壊などの危険がある場合は緊急避難



- 家屋の倒壊のおそれがある場合や、津波・土砂災害が発生するおそれがある場合はすぐに避難する

- 初期消火ができなかったら、屋外に避難して119番通報

津波のときは

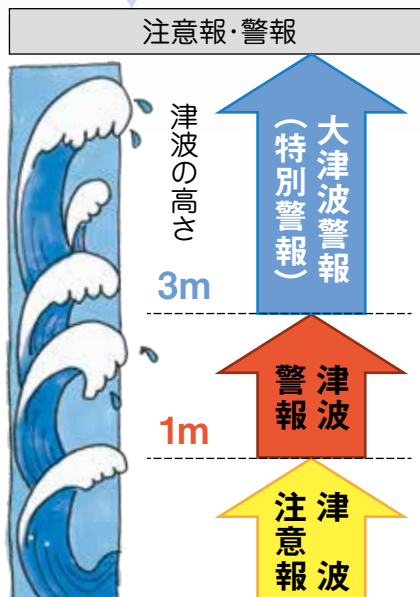

東日本大震災では、町の沿岸部に推定10.5メートルもの高さの津波が押し寄せ、この津波により大きな人的被害や住宅被害等が発生しました。

沿岸部で揺れを感じたら、すぐに高台などに避難しましょう。現在、堤防は本格復旧工事前であるため、津波、高波、高潮には厳重な注意が必要です。

▶ 津波警報・注意報が出たときの行動

「巨大」な津波と報じられたら、特に要注意！

東日本大震災と同様の巨大津波が来るおそれがある非常事態ですので、さらに高い場所への避難を目指しましょう。

注意報・警報	みなさんがとるべき行動
	<ul style="list-style-type: none">●沿岸部や川沿いにいたら、ただちに高台など安全な場所へ避難する●ここなら安全と思わず、より高い場所を目指す●津波警報・注意報が解除されるまで、安全な場所から離れない  <ul style="list-style-type: none">●海の中にいたら、ただちに海から上がって、海岸から離れる●津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近づいたりしない

情報がなくても、海岸付近で強い揺れを感じたら避難

津波警報・注意報が出される前に津波が襲ってくる可能性があります。

▶ 油断大敵、過信は禁物

俗説・過去の経験を過信しない

- 「波が引いてから津波が来る」などという俗説を信じないようにしましょう
- 「過去に津波が来ていない」場所でも、津波の来る危険があります

数十cmの津波でも危険

- 数十cmの津波でも、流れが速く足をとられて危険です



「遠く」より「高く」！

- 津波のスピードは速く、遠くへ逃げようとしても追いつかれてしまうので、「より高く」を意識して避難しましょう
- 事前の備えとして、日頃から安全な場所(高台など)を確認しておきましょう

風水害などのときは

台風や前線の影響で大雨、洪水、暴風、高潮といった風水害の発生が予想される場合、気象庁からは気象情報を、町からは状況に応じて避難情報を発表します。テレビ、ラジオなどで報じられる各種情報や空の変化にも注意し、無用な外出を控えるなど安全を確保するための行動をとってください。

▶ 気象情報・避難情報に注意し、早めの対応を

雨が強くなると… 大雨注意報 (洪水注意報)

- 最新の気象情報や外の様子に注意
- 非常持ち出し品を準備
- 屋外の備え(飛びやすいものの片づけなど)を確認



大雨が降り続けると… 大雨警報 (洪水警報)

- 町が発表する避難情報に注意し、必要に応じて速やかに避難
- 雨・風の影響を受けやすい地区の方、避難に時間のかかる方は、早めの避難を!



さらに激しい 大雨が続くと… 大雨特別警報

ただちに命を守る行動を!

非常事態!

- 自宅外への避難が危険なほど地域が浸水しているときは、建物の中で少しでも安全な場所(2階)などに移動しましょう



▶ 落雷や竜巻から身を守ろう

落雷からの 避難のポイント

屋外にいるとき

雷鳴が聞こえたら、すぐに建物や自動車の中に避難する

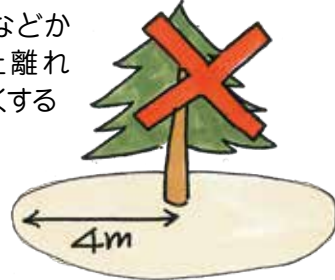


その場所が晴れていても、遠くで雷鳴が聞こえたら落雷の危険があります



避難する建物がないとき

木や電柱などから4m以上離れて、身を低くする



竜巻からの 避難のポイント

屋外にいるとき

すぐに頑丈な建物の中に避難する

竜巻注意情報が出されたら、周囲の空の状況に注意を払ってください



屋内にいるとき

1階に移動し、テーブルの下に入ったり、物陰で身を低くする

窓ガラスのそばには行かない



土砂災害のときは

大雨が降り出したときや長い間雨が降り続けているときには、土砂災害にも注意しましょう。
土砂災害には大きく分けて、がけ崩れ・地すべり・土石流の3つがあり、それぞれに前兆現象があります。こうした現象に気付いたら、直ちに周囲の人とともに安全な場所に避難し、町役場に知らせてください。

▶ 大雨・長雨のときは土砂災害の前兆に注意

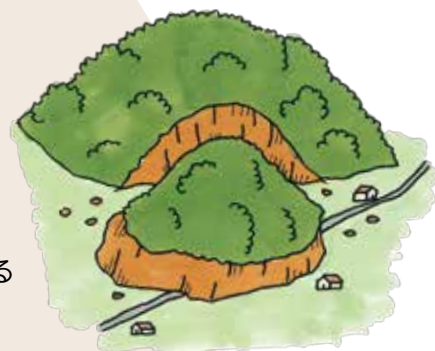
土砂災害の前兆現象

がけ崩れ



- がけや山腹にひび割れ、陥没ができる
- がけや斜面から水が噴き出す
- 落石が生じる
- 湧水が止まる
- 井戸や沢の水、湧水が濁る
- 急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- 地鳴り・山鳴りがする
- 樹木の揺れる音、根の切れる音がする
- 立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる
- 腐った土の匂いがする
- 樹木や電柱が傾き、地面に亀裂や段差ができる

地すべり



土石流



土砂災害警戒情報が出されたら

- 土砂災害の危険性が非常に高まったときは、「土砂災害警戒情報」が発表され、がけの近くなど土砂災害の発生しやすい地区に対して町から避難指示や避難勧告を出します
- 特に、お年寄りや障がいのある方など避難に時間がかかる人は、早めに避難しましょう

▶ 土砂災害から身を守るポイント

避難できない場合

がけや斜面から離れた2階の部屋など、家の中でもより安全な場所に避難!



土砂の流れる方向に対して直角の方向に逃げましょう



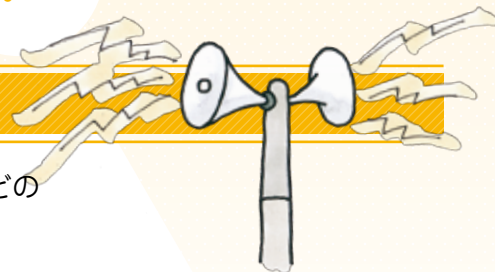
原子力災害のときは



原子力災害が起きた場合になによりも重要なことは、放射線被ばくを避けることです。放射性物質や放射線は、目に見えず、においもないため、原子力災害が発生した場合は、町などから出される情報をもとに、あわてず落ち着いて行動しましょう。

▶ まずは町からの情報に注意する

- 原子力災害の発生時には、町民の皆さんに取るべき行動や注意事項などの必要な情報を伝達します



▶ 屋内退避の指示が出たら建物の中に入る

外気が入ってくるのを防ぐために、ドアや窓を閉めましょう

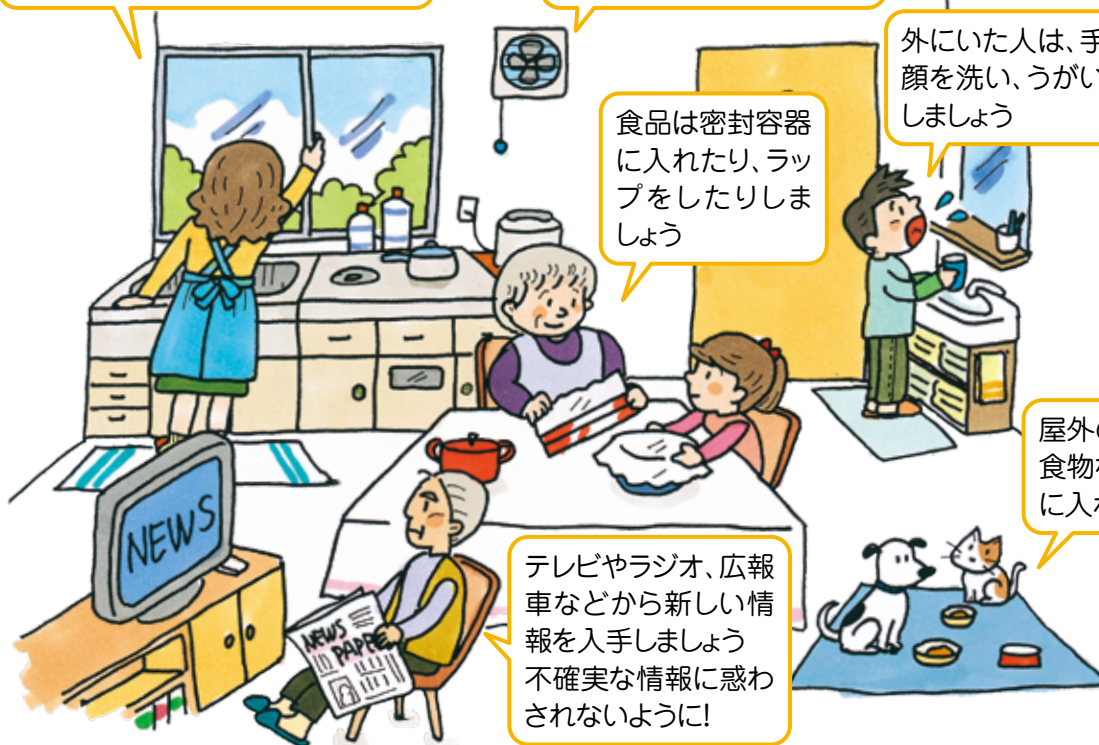
換気扇や外気導入式のエアコンなどは止めましょう

外にいた人は、手と顔を洗い、うがいをしましょう

食品は密封容器に入れたり、ラップをしたりしましょう

屋外のペットや飲食物などは、屋内に入れて下さい

テレビやラジオ、広報車などから新しい情報を入手しましょう
不確実な情報に惑わされないように!



▶ 避難指示が出たら、落ち着いて避難する



- 素肌を露出させない
 - 長そで
 - 長ズボン
 - 帽子
 - マスク
 - 手袋
- など

- 自家用車による避難が原則です(渋滞を避けるため、できるだけ乗り合いを)
- 車のない方のために、町などからバスを用意します



梶葉町で想定される災害危険

▶ 身の回りの危険を知っておこう

- いざという時にすぐに行動できるよう、自宅周辺など身の回りにどのような危険があるか、このハザードマップをもとに家族で話し合っておきましょう

このあたりは危険ね！



大雨になったらこの道を通って避難場所に行こう！

▶ 避難先・避難経路の安全も確認しよう！

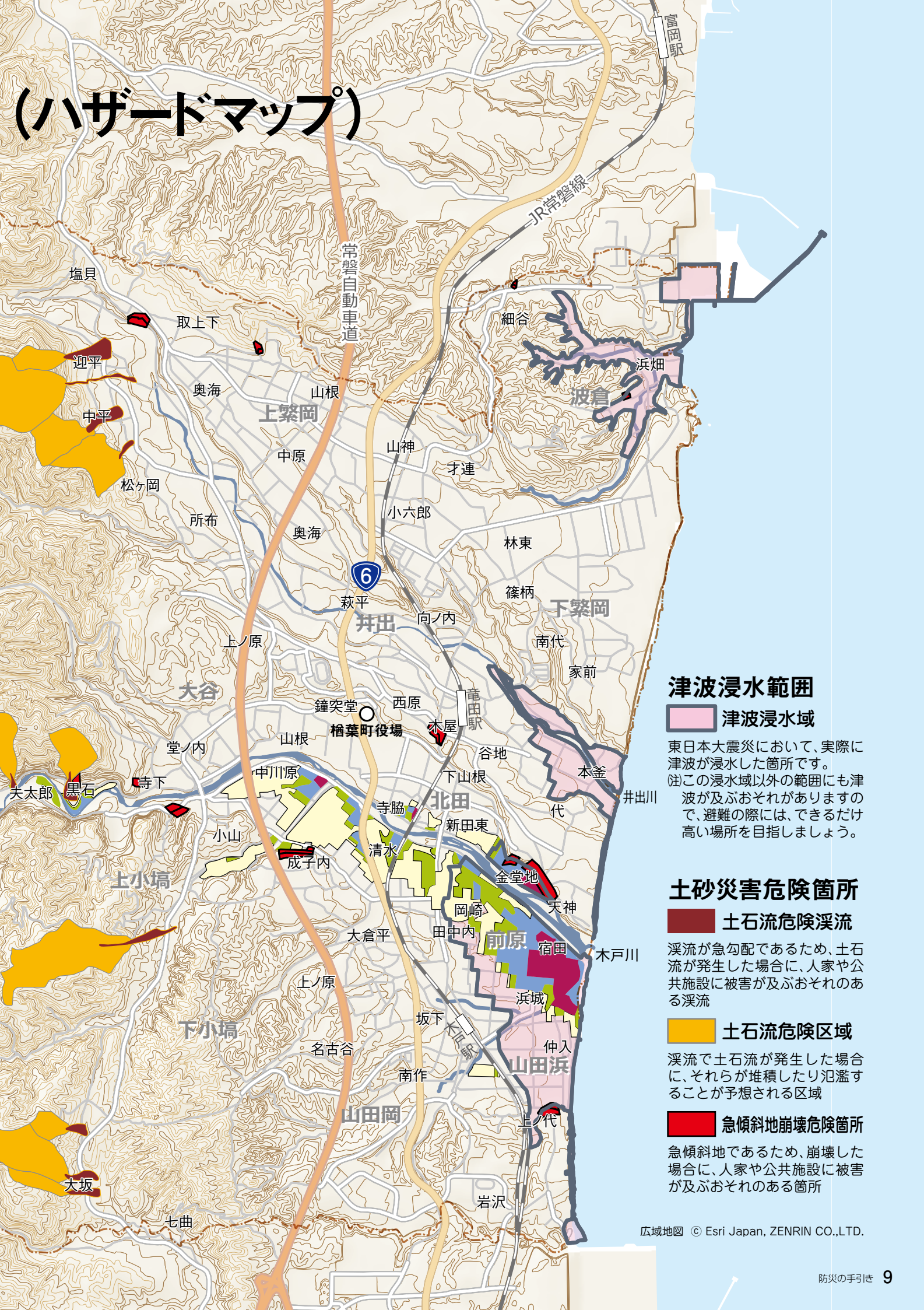
- 次ページの「梶葉町避難所マップ」を参考に、避難場所・避難所の位置を確認しておきましょう
- 避難場所・避難所への避難経路に、災害危険がないかも確認しておきましょう

洪水浸水範囲・浸水深

浸水深	浸水の目安
5.0m以上	2階の軒下以上が浸水する程度
5.0m未満	2階の軒下まで浸水する程度
2.0m未満	1階の軒下まで浸水する程度
1.0m未満	大人の腰までつかる程度
0.5m未満	大人の膝までつかる程度



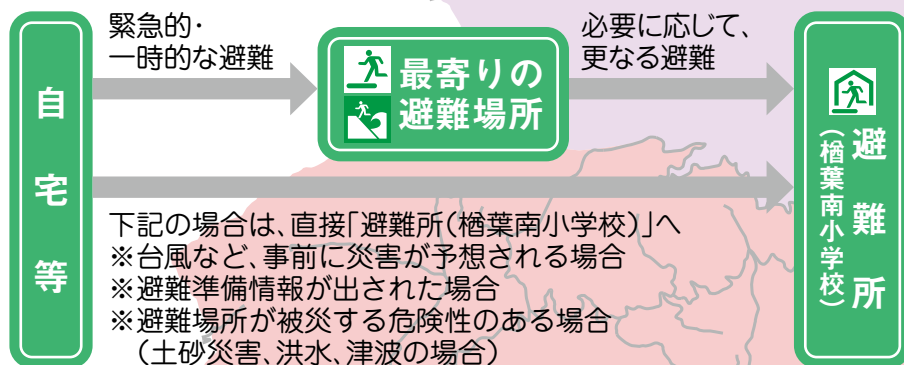
(ハザードマップ)





梶葉町避難所マップ

基本的な避難の流れ



記号の説明

記号	避難施設の区分	施設名
	避難場所 兼 避難所 原子力災害で避難する際の一時集合場所にもなります	梶葉南小学校体育館

記号	地図中の表示	避難施設の区分	説明
	①	行政区ごとに定める避難場所	自然災害時の緊急避難場所
	7	津波時避難場所	津波避難の際にのみ利用する

避難場所・避難所一覧

自宅のある地区の避難場所・避難所を確認しましょう

地区名	番号	施設名	備考
上井出	①	梶葉北小学校校庭	☞ 竜田駅からの緊急避難場所としても指定
	②	梶葉中学校武道館	☞
	③	梶葉町北児童館	☞
	④	上井出地区集会所	☞
下井出	⑤	下井出地区集会所	☞ 津波時は利用不可 → 下記2か所へ
	⑥	小田林	☞ 津波時はまずここに避難!
	⑦	大楽院	☞ 津波時はまずここに避難!
北田	⑧	梶葉町民体育館	☞
	⑨	あおぞらこども園	☞
	⑩	北田地区集会所	☞ 津波・洪水時は利用不可 → 「あおぞらこども園」へ

地区名	番号	施設名	備考
大谷	⑪	大谷地区集会所	☞
松館	⑫	松館地区集会所	☞
上繁岡	⑬	上繁岡地区集会所	☞
繁岡	⑭	繁岡地区集会所	☞
波倉	⑮	波倉地区集会所	☞ 津波時は利用不可 → 下記2か所へ
	⑯	ぼらぐち商店前	☞ 津波時、北側地区の住民はまずここに避難!
	(18)	(営団地区集会所)	☞ 津波時、南側地区の住民はまずここに避難!
下繁岡	⑰	下繁岡地区集会所	☞
営団	⑱	営団地区集会所	☞
乙次郎	⑲	乙次郎地区集会所	☞ 土砂災害危険時は利用不可 → 「梶葉南小学校」へ
上小塙	⑳	上小塙地区集会所	☞



広域地図 © Esri Japan, ZENRIN CO.,LTD.

地区名	番号	施設名	備考
下小嶋	21	檜葉南小学校体育館	避難場所 兼 避難所
	22	檜葉町公民館分館	
	23	檜葉町南児童館	
	24	下小嶋地区集会所	
山田岡	25	山田岡地区集会所	木戸駅からの緊急避難場所としても指定
前原	26	前原地区集会所	津波時は利用不可→「徳林寺」へ
	27	徳林寺境内	津波時はまずここに避難!
山田浜	28	山田浜地区集会所	
旭ヶ丘	29	旭ヶ丘地区集会所	
椴木下	30	椴木下地区集会所	
女平	31	女平地区集会所	土砂災害危険時は利用不可→「檜葉南小学校」へ

地区名	番号	施設名	備考
大坂	32	大坂地区集会所	
萩平	33	萩平地区集会所	
向ノ内住宅	34	向ノ内住宅地区集会所	
後沢住宅	35	後沢住宅地区集会所	
名古屋	36	名古屋地区集会所	
佐野	37	佐野地区集会所	
鐘突堂	38	鐘突堂地区集会所	
才連	39	才連地区集会所	
浄光西	40	浄光西地区集会所	

※東日本大震災により被害のあった建物については、復旧するまでの間、中には入れません。



名 前	電話番号・メールアドレス等

名 前	電話番号・メールアドレス等
災害用伝言ダイヤル	1 7 1

<input type="checkbox"/> 処方薬、お薬手帳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 携帯電話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 懐中電灯、携帯ラジオ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 非常食、水	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- おむつ
- ウェットティッシュ
- 障害者手帳
- 常備薬
- 補助器の予備
- など

■ 仮庁舎	TEL.0240-25-8523
■ 富岡消防署檜葉分署	TEL.0240-25-2119
福島県警察本部 双葉警察署	
■ 臨時庁舎	TEL.0240-25-1500